

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	救助技術大会のはしご登はんの訓練で、確保なしで数メートル登ってしまった。
3. 体験した事例の中心的要素	はしご登はん訓練中、確保者がつまずいてころんでしまい、確保ロープを引けない状態となった。 しかし、登はんしている隊員は、それに気づかず、はしごを登り続けてしまった。周りに居た隊員も大声で登はんの中止を知らせたが気づかなかった。 結局、はしごを登はんをしている隊員本人が、たるんでしまった確保ロープに気づき登はんを中止するまで、確保なしの状態が訓練が実施された。
4. 体験した事例の原因・理由	1 確保員が、登はんする隊員を見るために確保ロープを後ろ向きで引いていた。 2 普段から、はしごを登はんする時に周りから大声で声援されるため、訓練中止の声まで声援に聞こえてしまった。

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。
------------------	--------------

.....

1. 発生日時	平成 20 年 6 月 6 日 午前 11 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：消防署訓練塔
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [救助（大会に向けた訓練）]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	登はん訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの	初めて体験した。

程度の頻度で体験していますか。	
-----------------	--

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[40]歳、 勤続年数[21]年、 現場経験年数[19] 年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[22]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[4]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 []
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	号砲を鳴らした	
経過 2	B	はしご登はんを開始	
経過 3	B	約 3 m 付近まではしごを登はん	
経過 4	A	B を見ながら確保し、後ろ向きで走り転んだ	
経過 5	B	気づかず、登はんを続ける	
経過 6	周りの隊員	大声で訓練中止を知らせる	
経過 7	B	気づかず、更に登はんを続ける	
経過 8	B	たるんだ確保ロープに気づき、訓練を中止	
経過 9	A	すぐに立ち上がり、B を確保	
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

[illegible]

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

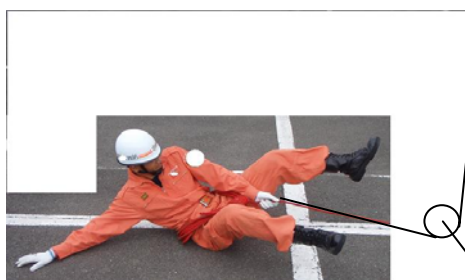
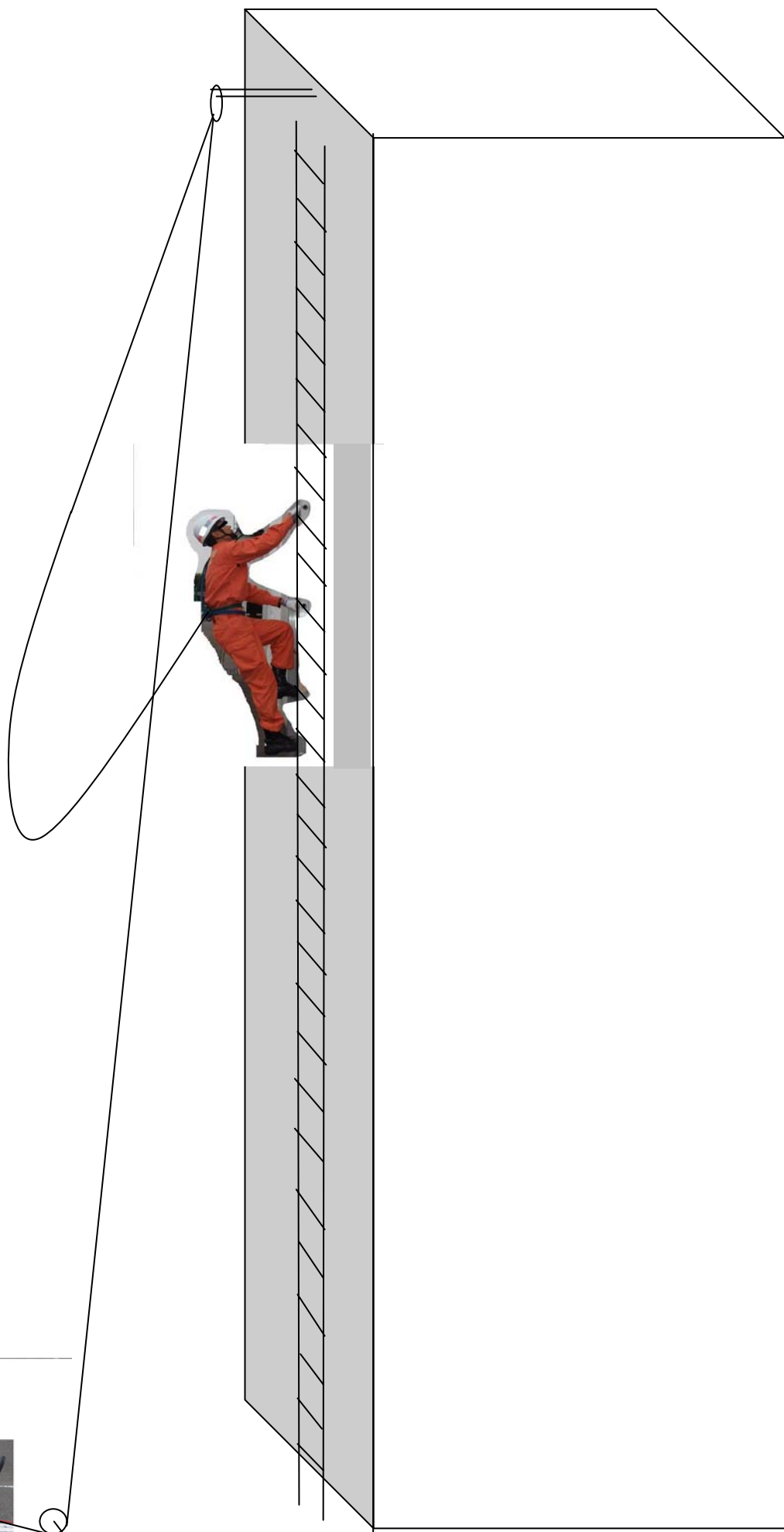
.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

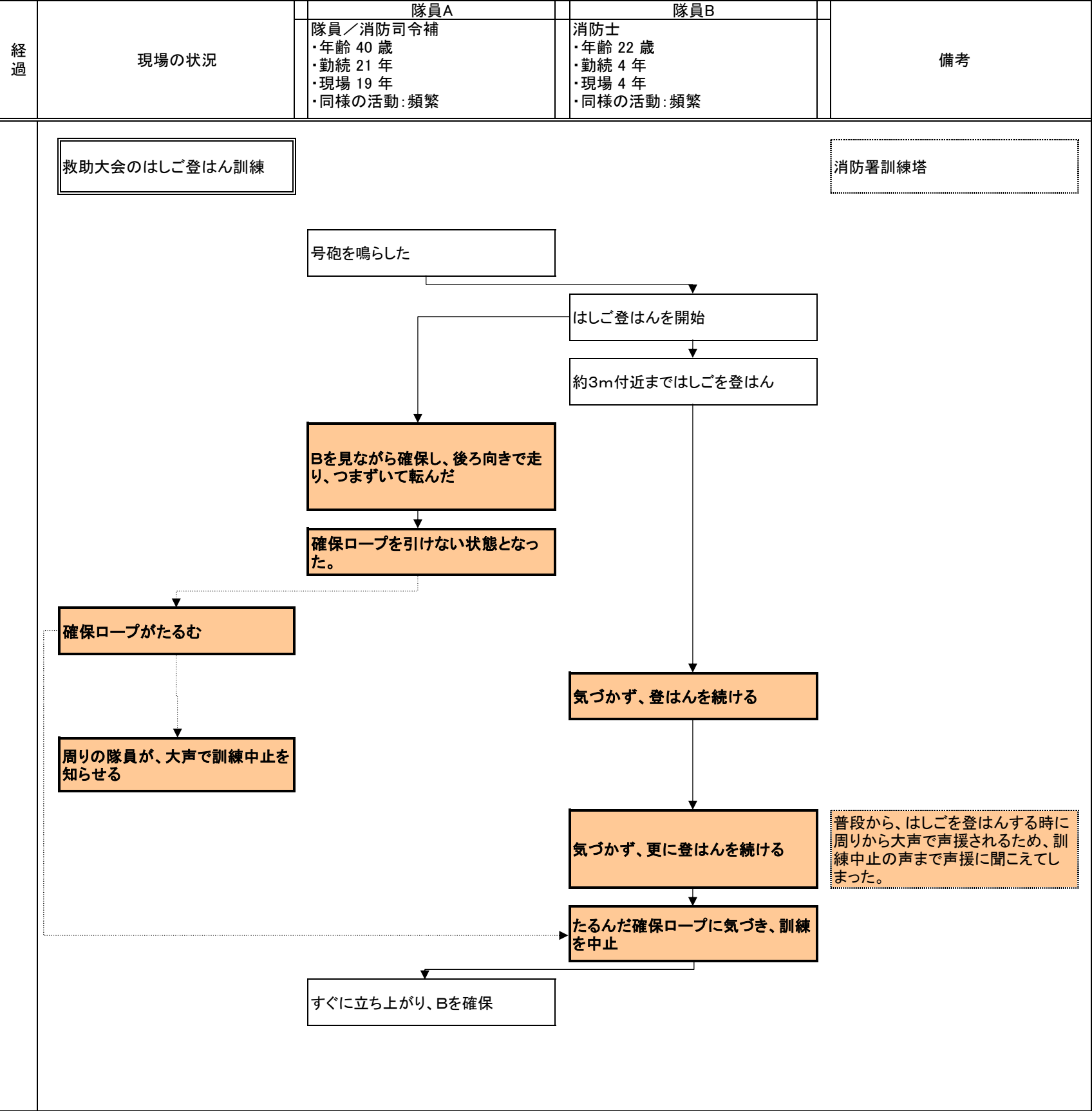


○ヒヤリハット事例:救助技術大会のはしご登はんの訓練で、確保なしで数メートル登ってしまった。

(同様の体験は、初めて体験した。)

(08H0261)

・発生日時 :平成20年6月6日 午前11時頃



◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

○直接的な原因:情報入力に問題があった。

・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

(心理・体調について)

・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。

・活動に対する経験が不足していた。

(活動環境について)

・足元が躓いたり滑りやすかった。